



小林 馨
(鶴見大学歯学部)

『顎関節症の専門治療に必要な画像検査、画像診断』

<要旨>

本学会による顎関節症の病態診断において顎関節円板障害と変形性顎関節症の確定診断は画像診断であり、このための画像検査法は MRI と CT である。つまり、“顎関節症の専門治療に必要な画像検査、画像診断”は MRI, CT であり、本講演はこの 2 つのモダリティを中心に正常解剖、病的像について解説し、臨床医として必須の知識である検査法の妥当性と信頼性を提示する。また、そこからフィードバックしたパノラマ X 線像の所見についても触れたいと思っている。その上で、個々の画像検査はどこまでを描出しているのかをあらためて確認しご理解いただきたいと思っている。

そして、画像診断の重要な役割は治療・管理目標を設定する一助となることである。しかし、この点については現在までに本学会において十分なコンセンサスが得られていないため、一部は私見になることをお許しいただきたい。

最後に、顎関節症以外の顎関節疾患の画像診断について簡単に概説する。

<講演内容>

- I MRI, CT の画像解剖と顎関節症の画像所見
- II 顎関節症の画像診断の妥当性と信頼性
- III 画像所見による顎関節症の治療・管理目標の設定
- IV 顎関節症以外の顎関節疾患の画像診断

<専門医カリキュラム>

- ・顎口腔系の構造を説明できる
- ・顎関節症の病態を説明できる
- ・画像所見を説明できる
- ・顎関節症の診断および病態診断ができる
- ・顎関節症以外の顎関節疾患と鑑別できる
- ・顎関節症以外の顎関節疾患と鑑別できる

<略歴>

- 1980 年 鶴見大学歯学部歯学科卒業、鶴見大学歯学部助手 (歯科放射線学)
1988 年 鶴見大学大学院歯学研究科 歯学博士、鶴見大学歯学部講師 (歯科放射線学)
1992 年 日本顎関節学会学会賞 (学術奨励賞) 受賞、鶴見大学歯学部助教授 (歯科放射線学)
2004 年 鶴見大学歯学部教授 (歯科放射線学)
2010 年 鶴見大学歯学部長 (~2016 年 3 月)

- 日本顎関節学会 元理事長, 監事
日本歯科放射線学会 理事
日本顎関節学会指導医・専門医
日本歯科放射線学会指導医・専門医
日本口腔科学会指導医・認定医
日本口腔インプラント学会基礎系指導医



小見山 道

(日本大学松戸歯学部)

『顎関節症の慢性の痛みに関する考え方』

<要旨>

日本顎関節学会は、改訂された顎関節症の治療指針 2020 をホームページに掲載しました。その専門治療の章に「咀嚼筋痛障害、顎関節痛障害が慢性疼痛化している場合の対応」という項目があります。そこには「咀嚼筋痛障害や顎関節痛障害の痛みが、何らかの原因で長期化し、末梢性あるいは中枢性に感作が生じた場合には難治性の痛みとなり、専門治療が必要となることが多い。基本治療における対応を継続しつつ、中枢神経用薬の処方を検討する。」と記載されています。折しも、国内の痛みに関連する学会の協働で「慢性疼痛診療ガイドライン」が改訂、発刊されました。腰痛などの慢性の筋・骨格性疼痛の痛みへの対応は、数年前とは完全に治療方針が変化し、より積極的な運動療法が推奨されています。今回の講演は、この慢性疼痛診療ガイドラインの内容を紹介し、慢性疼痛を訴える顎関節症患者に対する対応について解説する予定です。

<講演内容>

- I 顎関節症の痛みについて
- II 慢性疼痛について
- III 難治性の痛みへの対応について

<専門医カリキュラム>

- ・ 痛みの基本事項を説明できる
- ・ 顎関節症の発症メカニズムと症候、継発する病態を説明できる
- ・ 各病態に対し治療・管理目標を設定できる

<略歴>

1989 年 日本大学松戸歯学部卒業
1990 年 日本大学松戸歯学部 総義歯補綴学講座
1998 年 日本大学 博士 (歯学)
2001 年 日本大学助手 (松戸歯学部・総合歯科診療学)
2002 年 日本大学講師 (松戸歯学部・総合歯科診療学)
2003 年~2005 年 ベルギー王国ルーベンカトリック大学歯学部 客員教授
2011 年~日本大学准教授 (松戸歯学部・顎口腔機能治療学)
2016 年~日本大学教授 (松戸歯学部・顎口腔機能治療学, 2021 年~クラウンブリッジ補綴学)
日本大学松戸歯学部附属病院 顎関節咬合科科長

代表的所属学会:

日本顎関節学会 (理事 指導医),
日本口腔顔面痛学会 (常任理事 指導医)
日本補綴歯科学会 (常務理事 指導医), 日本疼痛学会 (代議員)
日本顎口腔機能学会 (理事), 日本歯科心身医学会 (評議員)
International Association of Dental Research (Past President for Neuroscience Group)
Asian Academy of Craniomandibular Disorders (Council member)
International Association for the Study of Pain



大井一浩

(金沢大学)

『顎関節症の外科治療』

(パンピングマニピュレーションおよび

顎関節上関節腔洗浄療法の適応とその意義)

<要旨>

顎関節腔(上関節腔)穿刺手技とそれに伴う治療法であるパンピングマニピュレーション(顎関節腔麻酔による徒手の顎関節受動術)および顎関節上関節腔洗浄療法(アルスロセンテーシス)は、日本顎関節学会編『新編顎関節症(改訂版)』において、顎関節症に対する基本的な外科的治療のひとつとされています。しかしながら、本法に対して専門医を目指すものが十分な修練を積むには症例数に限りがあり、基本手技とはいえ、その適応に対する診断、安全な手技や術後管理の習得には工夫が必要です。

本講演では、成書や本法に精通する指導医から学んだ経験を交えながら、本法の術式、適応とその意義について概説したいと思います。受講者の皆様の臨床に少しでもお役に立てれば幸いです。

<講演内容>

- I 上関節腔穿刺に必要な局所解剖
- II パンピングマニピュレーションおよび顎関節上関節腔洗浄療法の術式と周術期管理
- III 本法の適応症とその意義

<専門医カリキュラム>

- ・医療面接を実施できる
- ・顎関節症の診断および病態診断ができる
- ・外科的療法の適応症を判断できる
- 顎関節腔穿刺法(パンピング)、顎関節腔洗浄療法(アルスロセンテーシス)

<略歴>

- 2000年3月 北海道大学歯学部卒業
2000年4月 北海道大学大学院歯学研究科口腔病態学講座口腔顎顔面外科学教室研修医
2005年3月 北海道大学大学院歯学研究科修了・博士(歯学)
2005年4月 市立砺波総合病院歯科口腔外科医員
2007年4月 北海道大学病院歯科診療センター医員
2012年4月 市立砺波総合病院歯科口腔外科医長
2014年10月 金沢大学附属病院歯科口腔外科講師(現在に至る)
2016年5月-2017年3月 Musculoskeletal Biology, Institute of Ageing and Chronic Disease, University of Liverpool, UK (Honorary Research Fellow)

日本顎関節学会 専門医・指導医、代議員(専門医等試験委員会委員、診療ガイドライン作成委員会委員)

日本口腔外科学会 専門医・指導医

日本顎変形症学会 評議員

American Society of TMJ Surgeons (ASTMJS) International member

IBCSOMS Fellow (International Board for the Certification of Specialists in Oral and Maxillofacial Surgery)



川上哲司

(奈良県立医科大学)

『顎関節症の外科治療』

(顎関節鏡視下手術および顎関節開放手術の
適応とその意義)

<要旨>

顎関節症の病態が、self limiting な疾患であることが解明され、保存的療法が初期治療として施行されているのが現況である。しかしながら、保存療法を施行しても奏功しないことがある。そのような場合、救済手術として、顎関節鏡視下手術や顎関節開放手術、または顎関節鏡視下での顎関節開放手術が適応される。

治療戦略として、顎関節鏡視下手術および顎関節開放手術の外科的介入をどのように、いつ、どのような選択で決めるか、そして、合併症はどうか、また、術後管理と治療効果の判定と時期について述べ、その利害得失について説明する。

<講演内容>

- I 顎関節鏡視下手術の適応、診断的・治療的意義
- II 顎関節開放手術の適応、治療的意義
- III まとめ (利害得失)

<専門医カリキュラム>

- ・ 関節鏡検査の適応を説明できる
- ・ 顎関節症以外の顎関節疾患と鑑別できる
- ・ 外科的療法の適応症を判断できる

<略歴>

- 1984 年 3 月 神奈川県立歯科大学歯学部卒業
1984 年 4 月 奈良県立医科大学附属病院臨床研修医 (口腔外科)
1986 年 4 月 奈良県立医科大学附属病院医員 (口腔外科)
1993 年 5 月 奈良県立医科大学助手 (口腔外科学講座)
1996 年 1 月 文部科学省在外研究員 (アメリカ合州国カリフォルニア大学ロサンゼルス校)
1998 年 4 月 奈良県立医科大学講師 (口腔外科学講座)
2016 年 4 月 奈良県立医科大学非常勤講師 (口腔外科学講座) (現在に至る)

日本顎関節学会指導医・専門医、理事

日本口腔外科学会指導医・専門医、代議員

日本口腔顔面痛学会指導医・専門医、評議員

日本小児口腔外科学会指導医・認定医、評議員

日本睡眠歯科学会指導医・認定医、評議員

日本歯科麻酔学会認定医



和気裕之

(みどり小児歯科クリニック)

『顎関節症の心身医学・精神医学的対応』

<要旨>

歯科医師は、全ての疾患を bio-psycho-social model で捉えて診る必要があります。そして、psycho-social factor の影響の程度は、各疾患で、また、同一疾患でも各患者で、さらに、同一患者でも時期により差がありますので、それぞれを評価すべきです。従って、特定の疾患を、例えば「顎関節症は歯科心身症である」と用いるのは誤りです。

治療は、医療面接からはじまり、診察と検査、鑑別診断、インフォームド・コンセント、治療方針の決定を行い進められます。いずれも重要ですが、医療面接は特に大切です。

患者の評価では、自覚症状と他覚所見の関係を検討することが肝要です。そして、①自覚症状に見合う他覚所見が認められないケース、②他覚所見はあるがそれでは自覚症状を十分に説明出来ないケース、そして、③自覚症状に見合う他覚所見が認められるケースに大別します。①と②は、特に心理社会的な要因を考慮して、背景因子を把握するための医療面接を行います。なお、③のケースでも不安や抑うつ等を伴う場合があることを忘れてはいけません。

難治性の顎関節症には、慢性疼痛、執拗な咬合違和感や全身性の不定愁訴を伴う症例等にありますが、これらは、身体症状症やうつ病等の精神疾患と関係している場合があります。

講演では、顎関節症の診療に必要な心身医学の知識と技術を学んで頂きたいと思えます。

<講演内容>

- I 心身症, 歯科心身症, 身体症状症
- II 顎関節症と心身医学, 難治症例
- III 歯科医師に必要な心身医療

<専門医カリキュラム>

- ・心身医学・精神医学の基本事項を説明できる
- ・心身医学・精神医学的診察の必要性を説明できる
- ・精神神経学的疾患の鑑別ができる
- ・心身医学・精神医学的な因子を有する患者への対応ができる

<略歴>

- 1978 年 日本大学松戸歯学部卒業
- 1981 年 みどり小児歯科開業 (横浜市)
- 1992 年 東京医科歯科大学口腔外科で精神科医とのリエゾン診療を開始
- 1999 年 歯学博士 (東京医科歯科大学)
- 2017~2018 年 一般社団法人日本顎関節学会 副理事長
- 2018 年 一般社団法人日本顎関節学会 名誉会員
- 2021 年現在 みどり小児歯科院長, 東京医科歯科大学臨床教授, 日本大学客員教授, 昭和大学客員教授, 神奈川歯科大学客員教授, 北海道大学客員臨床教授, 長崎大学非常勤講師, 千葉大学非常勤講師